



日々好日は信心から

日々好日

六八〇号

(令和七年十月発行)

地球は温暖化ではなく沸騰化の時代に入っているといわれています。南北極地の氷は融け海水温は上昇し、それによって台風は巨大化し、大規模な山火事の多発すらも同様であるといわれています。

稔りの秋は台風の季節でもあります。黄金色の稲穂が濁流に吞まれるのを見るのは耐えられません。果物が強風で落下し出荷できないのも同様です。

台風15号では静岡県などで線状降水帯による豪雨被害があり竜巻により家屋に甚大な被害が出ました。水と電気の供給が断たれるのは命に直結します。

これに加えて我国は地震国でもあり、個人では防災の対応にも限度があります。刻々と情報が伝わる台風とちがいで地震は周期的に発生するといわれても、ある日突如の感が強い。

三十年以内に発生する確率が八十%といわれる南海トラフ地震も正直なところそれに備えて緊張感をもって日々生活することは難しい。せいぜい家具の転倒を防ぐことくらいしかできませんが、本堂の仏像仏具はそれすらも出来難い。十月一日、龍門寺被災の日を前にして対応に苦慮の日々を過ごしています。

弘法大師のお言葉

「三災大劫の末までも、靈山に仏常に在す」
(宗秘論)

(この世界が無くなってもそれにかかわりなく仏は常に説法しておられる)

三災：火災・風災・水災



非 仏
遥 法

真 如
非 外

即 心
近 中

何 棄
求 身

日々好日

六二五年）九月二十一日に死去。六十五才であった。

当山の本尊彌勒菩薩像は広家公が富田城主であられた時、京佛師をして謹刻せしめられた尊像で、慶長二年のことである。

この弥勒菩薩も、昭和十六年十月一日に裏山が崩壊し、堂宇滅失の難に遭遇し、その折本尊も損傷しましたが、幸いなことには損傷したのは光背と蓮華座を除く台座の下部のみであったのです。

ご尊体と蓮華座が損傷を免れたことは信じ難いことでもあります。堂内に居た住職も怪我一つなく救出されたことも仏の冥護を感じないではありません。

一國一城の令によって破却され岩国城が再建された昭和三十七年に広島から佛師を招いて修復しています。それは破損した部材を拾い集めていたものを応急処置的な復元修復であった。被災後二十年を経たことでした。

この修復から三十年、今度は歳月を経て汚れも目立つので、ご尊体の金箔の洗い出しをしていただきました。光背などは古色をおびた金箔に張り替えて頂き、広家公謹刻当時を髣髴とさせる尊像となりました。

その後、平成十五年八月に龍門寺岩国再興四百年を記念して、蓮華を内部にあしらった春日厨子を新調して、面目を一新し荘厳味が増すことができました。

こうして本尊を修復をさせて頂くことは住職のつとめですが、弥勒菩薩も喜ばれて寺の移転地を私に教え導



て下さったのだと受け止めています。

その通津は先にも述べました通り、彌勒菩薩像造刻の施主広家公が晩年二年間過ごされた地であることに、不思議な因縁のようなものを感じるのです。

その広家公の隠居館が建てられていた本呂尾の地に昭和四十年十月一日に記念碑が地元有志によって建てられ吉川家ご当主も参列され式典が催されています。

下の写真がそれですが、左の和服姿の老翁は永田新之丞元岩国市長である。その右が吉川家ご当主。

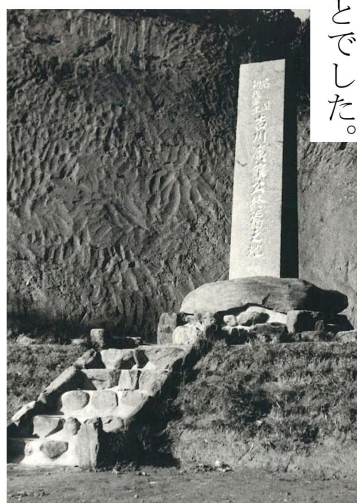
その左が当時の土肥市長。吉川家ご当主と土肥市長の後ろに亡父の顔が見えます。

龍門寺住職として広家公との関係を深く認識しての式典参加である。

私も通津に移転を決めた時この碑を訪れて移転事業の無魔成就を祈ったことでした。

広家公没後四百年の今年、移転十年の記念法要を営むことができたことを喜んでいきます。

今一度記念碑を訪りたい。



・高野 榎・

九月に入っても未だ酷暑の日が続いています。この暑さは人間だけにとどまらず他の動植物も大変なおもいを以て生き抜いているのではないのでしょうか。

移転して十年、尾津の狭い境内にも六十年を経てさまざまな樹木が所せましと植えられていました。

移転に際して可能な限り移植しました。その中でもひととき大きなクログアネモチは移植してもすぐに枯れてしまふだろうと思っていました。元気に存在感をしめしています。

枯れることなど思いもしなかった椿や桜そして高野榎は幾本も枯らしてしまいました。特に高野榎は思い入れが強く枯れたときには断腸の思いがいたしました。

移転時に新に植えて頂いた蘇鉄は元気旺盛で頼もしいかぎり、玄関先で来訪者を迎えてくれます。

また空池そばの五葉の松もおちついた形状で目を引く存在です。

二本の紅梅も幼木ながら花の少ない時期に花をつけてくれますし、信者さん手植えの桜も年々花をつけてくれます。成長が楽しみなことです。こうして樹木が成長してお寺の境内らしくなっていくのは嬉しいかぎりです。

この夏、鉢植えの丈二躰ばかりの高野榎を三代氏に献木いただきました。参道正面の修行大師像の脇に置いています。お大師さまもよろこんでおられるように拝され嬉しいかぎりです。



小僧時代を過ごした高野山の三宝院の山門脇には樹齢百年は過ぎているであろう見事な高野榎が数本あり、毎日目にして元気をもらっていたことを思い出します。

高野の名がついているだけで特別感のある樹木ですが、気品があり、仏前の供花にも適しており、高野榎は私にとって特別な樹木です。



高野山に思いを馳せ、高野榎の生気を頂いて日々元気に精進して悔いのない余生を過ごしたい。現在、境内の南の境界線上に一躰ばかりに成長した五本の高野榎があり、他の樹木とともに成長を見届けたい。

去る九月六日に成年式、加冠の儀を執り行われた悠仁さま由縁の木が高野榎であることも思い出しました。とにかく高野榎は格別な樹木である。

このところ樹木の手入れも除草も家内まかせで、私は専ら傍観者で、あれこれ批判する立場にはありませんが、気候も暑さの中でも次第に凌ぎやすくなり、



体調もよければ樹木との触れ合いを密にしていきたい。

高野山奥之院弘法大師御廟前奉納御写経 六五七

二卷奉納 岩国市装束町四丁目 福島 松代殿
二卷奉納 岩国市南岩国町二丁目 沖本あつ子殿
一卷奉納 岩国市通津 吉岡 律子殿
(八月十一日〜九月十日奉納分)



佛 教 説 話

五八二

☒己が高徳を恃み賤形の沙弥を打ちて悪死を得る

奈良の都、勝寶応真、聖武太上天皇は大誓願を發して、天平元年春二月八日をもつて元興寺において大法会を設けて三宝を供養しました。

天武天皇は孫の長屋親王に勅して衆僧に食事を供する役に任ず。

時に一の若き沙弥ありて不謹慎にも飯を盛る場所に行つて鉢を高く捧げて飯を受けたのです。

それを目にして親王は象牙製の笏をもつて沙弥の頭を打ち据えたのでした。頭から出血して、親王を怨み哭きながら立ち去りました。

これを見ていた僧や俗人は「これは凶事なり」と。二日が経過し、怨み妬む人ありて、天皇に中傷して告げるのでした。

「長屋親王は国家を亡ぼし皇位を奪わんとしています」と。

天皇はこれを聞いて激怒し、軍兵を遣わして親王を捕らえてのでした。

親王は言いました。

「私は罪など犯していないのにどうしてこのような荒ら

しいことなされるのですか。私は処罰されるよりは、自ら死なんことを望みます」と。

親王の子らに毒を服さしめ、親王もまた毒を服して自害したのでした。

天皇はその屍を城外に捨てて焼き河に流したのでした。その遺骨は流れ流れて土佐の国に流れ着きました。その時から、その国の百姓の死ぬ者多し。

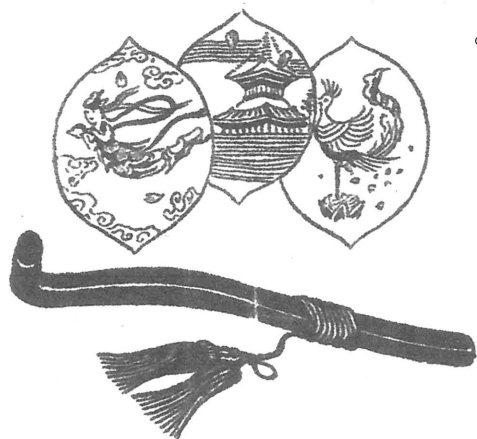
百姓は憂患して役人に申しました。「親王の死はこの国の百姓に死をもたらしめています。なんとかして下さい」と。

それはやがて天皇の耳にも達し、皇都に親王の悪気が近付くことがあつてはならないと、紀伊の国の海部の沖の嶋に親王の御霊を祀つたのでした。

親王は思うのでした。「福貴熾んなる時には、都にまで高名が知れ渡るのに、不吉な災難が続くときには、頼りにするところもなし」と。

自らの高徳を恃み、彼の沙弥を打ち仏法を護る神も顔をしかめて憎み嫌っている。

袈裟を著たる類は賤形なりと雖も恐れるべきなり。仏が本心を隠した存在であると心得て接すべきなり。



この故に樹生婆羅門経には、前世で位の高い人も、おシヤカさまの頭を履物踏みつけるような罪と同様で、袈裟を著ける人を打ち侮る者の罪は甚だ深く重し。

(日本国善悪霊異記・中巻・一)

あとがき

連日のさしもの暑さに夏バテ気味の状態の日もありましたが、夏の最後の行事である、お施餓鬼を務め終えることが出来て安堵しています。

酷暑を耐え抜いて元気な顔を見せていただいた参詣の善男善女の為にももう一頑張りしなければと自らを叱咤したことでした。

十七年間使用した電気冷蔵庫を買い替えました。息切れ寸前でした。消費電力も少なく効能のよい新製品ですが、人間は買い替えることはできません。

七月の参院選挙で惨敗した自民党でしたが、衆参両院での過半数割れでは政権運営は困難を極めますが、トランプ関税への対処も根気強くされていまして、此のところ内閣支持率も向上しており、石破首相ご自身は続投のつもりでしたが、総裁辞任を表明されました。

党内での基盤がもろく権力闘争に敗れたということでしょうが、その後継者も与党過半数割れでは野党との協力がなければ何事も前には進みません。国の内外に懸案事項の多い時代、辣腕を振るって課題を解決する後継者はいるのでしょうか。関心をもつて推移を見守りたい。

秋のお彼岸を前に赤トンボが群れ舞っています。災害の無い稔の秋であって欲しい。クーラーに頼らず、開け放たれた部屋で吹き抜ける風に秋を感じる日を待ちたい。

発行者

高野山真言宗

宝池山 龍門寺

吉岡 光昭



地蔵菩薩
以大慈悲
普聞名號
若不墮闇

呆け封じ

人の尊嚴

守り給う

地蔵菩薩の

慈悲ぞ嬉しき



岩国市通津3634番地3 〒740-0044

高野山真言宗

宝池山 龍門寺 発行

電話 岩国(0827)38-4611